

# 達人に聞く！眼底画像活用術

— 緑内障診断をOCT任せにしていませんか？ —

2015年5月31日(日) 8:30～9:30 金沢市文化ホール 2F 大集会室

## 座長



**東出 朋巳** 先生

金沢大学附属病院  
眼科 病院臨床教授

座長のいっしょ

高性能のOCTが急速に普及し、眼底疾患の診断・治療にOCTを活用することが当たり前の時代となりました。緑内障診療においても、OCTによる網膜神経線維層厚解析や黄斑部網膜内層厚解析の有用性が脚光を浴び、OCTが万能のように思われがちです。しかし、OCTのみでは緑内障の自動診断はできません。OCT+視野検査でも確定診断はできません。どこの国のガイドラインでもOCTはいまだに緑内障診断の補助的検査です。なぜでしょうか？OCTは眼底の限られた情報しか提供できず、異常判定には適切な撮像・被検眼条件が前提となるからです。したがって、OCTで微細な眼底構造変化を調べる前に、眼底を総合的かつ質的に診ることが緑内障診断には不可欠です。つまり、視神経乳頭を中心に眼底を詳細に観察し緑内障を疑うところから診断が始まるわけです。そこで威力を発揮するのが眼底カメラです。OCTの陰に隠れがちですが、眼底カメラも着実に進歩しています。撮った画像を活用するソフトも充実してきました。OCT全盛時代の今こそ、眼底画像を最大限活用することがよりよい緑内障診療を実現する鍵といえるでしょう。

本クルーズスでは、2人の達人にご登壇いただき、新田耕治先生にはコーワステレオ眼底カメラ(nonmyd WX)による眼底の3次元的观察の重要性と専用動画ソフトによる継時的観察の有用性について、山岸和矢先生にはコーワ独自の眼底対応自動視野計(AP-7000)の有用性といろいろな眼底画像を組み合わせる新しい活用法についてご講演いただく予定です。どうぞご期待ください。



### 講演 1

**緑内障患者のフォローアップに  
有用な画像アプリケーション**

**新田 耕治** 先生

福井県済生会病院 眼科部長



### 講演 2

**開業医から見た  
眼底対応視野計の活用**

**山岸 和矢** 先生

ひらかた山岸眼科 院長